

現代の食生活に向けた漆器の制作

a2200719 中村志津香

背景と目的

私は会津に来て一人暮らしを始めてから、改めて実感したことがあります。それは、いつも自分のことを気にかけて支えてくれた家族は自分にとって大切な存在であるということです。

現代では多くの家庭で1人1人が自分の部屋を持ち、家族同士の関わりが希薄になりがちであるという状況が様々な報道で伝えられ、それは昨今の痛ましい事件にも関係があるように思われます。このことから私は家族間でのコミュニケーションの必要性を強く感じ、これまで学んできた漆を用いてコミュニケーションのきっかけを作ることはできないかと考えました。

そこで、まずは食事の時間を共有することから始めようと、家族で使用するための漆器を制作することにしました。

デザイン

様々なメニューで使用できるように3種類制作

深皿：直径 30 cm

中皿：12 cm × 20 cm

小皿：直径 15 cm

3種類の皿をそれぞれ「巣」・「親鳥」・「ひな」をモチーフとし、関連性を持たせる

それぞれの皿を数人で使用した方が楽しい

制作工程

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1. リサーチ | 10. 錆付け |
| 2. スケッチ | 11. 化粧錆 |
| 3. 素材・サイズの決定 | 12. 下塗り（スグロメ）・研ぎ |
| 4. シリコン型の制作 | 13. 中塗り（スグロメ）・研ぎ |
| 5. 石膏型の制作 | 14. 加飾（研出し蒔絵 / 銀） |
| 6. 布着せ・目擦りを交互に
（小・中皿5回 / 盛皿7回） | 15. 上塗り（呂色・色漆） |
| 7. 型からはずす | 16. 完成 |
| 8. 盛皿の切り出し | |
| 9. 固め | |



シリコンの型で同じ形の石膏型を5個作る



粘土原型



布着せ・目擦り後（型にはまった状態）



中皿 錆付け後



盛皿 切り出し・固め後

考察と感想

作品制作においては、同じ型を複数作るため、シリコンゴムでの型取りを行いました（その都度外側の型を壊さなくても済むため）。初めての試みということもあり、固まる前に液状のシリコンが流れ出たりと苦労もありましたが、最終的にはうまく型を取ることができました。

また、器を型からはずす時の力の入れ具合や湿気の関係で歪みが出てしまったのは想定外でした。型からはずす前に、外側を下地の工程まで進めておいた方が歪みが少なくて済んだかもしれません。美術的な表現ではなく日常の造形作品に取り組んだことで、改めてデザインをすることの難しさを実感しました。どのような形にするか、家族で使ってもらうためにはどうすればいいか、個数は…など次から次へと考えるべき事が出てきて、実際に制作を始める前段階は最も悩んだところでした。これまで1つの事柄についてここまで深く考え、力を入れたのは初めてだったのでよい経験になりました。短大で学んだことを今後も活かしていきたいと思えます。